

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873400208
法人名	有限会社 介護支援サービス しるもと
事業所名	グループホーム・サマリヤの家
所在地	上浮穴郡久万高原町上野尻甲 6 2 3 - 2
自己評価作成日	平成28年5月9日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年6月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然豊かな山々に囲まれた久万高原町の野尻地区の人情豊かな地にあり、「自由権の尊重」を基本的に置き、入居者の意思、行動に危険性がない限り干渉せず、自立と本人の望む生活を支援する事に力を入れて取り組んでいます。高齢化とともに重度の利用者さんが多くなっていますが、地域とのかかわりを持つことができるよう外出支援などにも力を入れている。認知症になっても住み慣れた地域の中で支えあう家族、職員、地域の人達と共に楽しく、自分らしく暮らしています。

窓や天窓から自然光が入り、風通しがよく、ベランダではキュウリの苗が生長し実を付けていた。日中は居間で過ごす利用者が多く、思い思いに過ごしている様子が見られた。昼食時には、照明を点け明るくして、食後には消していた。洗面台には、小さな花瓶に野花を飾っている。又、家族からの誕生日プレゼントの花かごをテーブルに飾っていた。カラオケが好きな方は、1階の大きいホールで大きい音でカラオケを楽しんでいる。調理専門の職員を配置して、食事は、彩り良く、野菜を多く採り入れ、全体的に柔らかく調理している。煮物が好きな利用者が多いこともあり、季節の食材を使った煮物をよく献立に採り入れている。調理にかかわる利用者はエプロンを着け、すり鉢でゴマをすったり、食後の食器拭きをしていた。介助が必要な利用者には、職員が隣に座り、一口ずつ「お魚ですよ」「お寿司ですよ」と声をかけサポートしていた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) 当ホームは開設当初より住み慣れた地域での安心した生活と本人の望む自由な暮らしを支えるために、代表者と管理者が、様々な場面で理念の大切さと実践に向けた取り組みについて話し、ホームの理念を職員全員で作成し、共有し、迷った時は理念に戻り、実践に向け努力している。また、カンファレンス時職員全員で、理念を唱和している。</p> <p>(外部評価) 「やさしい笑顔 寄り添う心 主役はお年寄り」という理念を2階事業所入り口に掲示している。又、経営理念や職員の目標を居間に掲示している。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>(自己評価) 自治会にも加入しており、公民館の行事(公民館まつり)や、集会所の掃除にも行っている。婦人会、高校の文化祭のバザーや、近所の幼稚園、保育所の行事にも声をかけてもらいできるだけ参加し、地元の方々との交流に努めている。水曜日の小学校の集団下校に合わせ、見守り隊に参加し、子供たちに声をかけている。</p> <p>(外部評価) 地域行事が多くあり、敬老会等、顔なじみの方が参加するような行事には積極的に参加している。地域の飲食店で外食したり、職員の慰労会等でも利用している。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 法人全体で、講師を依頼し関係者や地域の方々を対象にした認知症に関する講演会の開催や、軽トラ市に職員が参加したり利用者さんと出かけている。地域密着型主催のチャレンジに参加し、雑巾を利用者さんと縫い、中学校、小学校、保育園、幼稚園に進呈した。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームの近況や利用者・職員の異動、研修等の報告や運営推進会議委員にも避難訓練や研修に参加して頂いている。今後、もっといろいろな立場の方に働きかけて、出された意見をサービス向上に活かしていきたい。	今後、自宅で介護を行っている方達にも、会議に参加してもらいたいと考えていた。民生委員の方につき役になってもらう等して、さらに会議を活かして地域ニーズを踏まえた取組みをすすめてほしい。
			(外部評価) 会議には、利用者・家族・職員・民生委員・行政職員等が参加している。参加者は事業所を実際に見たり、活動報告を聞くことで事業所のことをより知ってもらえている。会議時に外部講師を招き研修を行った際には、利用者も参加した。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 町が主催する地域ケア会議にできるだけ出席するようにし、勉強させてもらったり情報の共有を図っている。また、介護相談委員の訪問が月に2回あり、利用者さんの思いも聴いてもらい事業所に報告をしてもらっている。また、運営推進会議にも必ず出席して頂いており協力が得られている。	
			(外部評価) 小・中学校の職場体験の受け入れを行ったり、高校生はクラブ活動で利用者の足置きを作ってくれたりした。介護相談員訪問時は、利用者の話をじっくりと聞いてくれており、聞き取ったことはシートに記入してくれる。事業所からも返事を書き、ファイルしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は人権侵害にあたることを職員は認識している。身体や言葉の拘束だけでなく、主治医と相談しながら薬での拘束にも気をつけて取り組んでいる。カンファレンス時にも、利用者さんに制限をするような言葉の代替えについて、代表と一緒に考えている。	
			(外部評価) イスやソファーに座っていると、少しずつずれて落ちそうになるような方は、職員が見守り、時々姿勢を直して支援している。昼から職員が床で新聞折り等をする際には、利用者も床に座って時には這ったりしながら自由に過ごしていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 代表者・管理者共に虐待についてははっきりした考え、方針を持っている。毎月のカンファレスで、身体的・精神的すべての虐待を生じさせないように指導をしている。食事会に行ったりして、職員のストレス解消のために努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在当ホームに対象者が1名いる。権利擁護に関しては代表がカンファレンスの時話をしたり、研修に行った職員が全職員に周知している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時には当ホームのケアに関する考え方や取り組み等をはじめ、GH協会から出ている「利用者の権利・倫理綱領」等を契約書と一緒に渡して不安のないよう十分に理解・納得をして頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 介護相談員が月に2回来訪しており、利用者が外部の人に思いを話せる機会となっている。利用者や家族が、いつでも要望・不満・苦情を表すことができるよう管理者や職員は柔軟な姿勢を持つようにして、当人のその時々々の思いや希望などを大切に、運営に反映させるように取り組んでいる。県外の家族さんにも月1回、利用者さんの様子を知らせている。また、家族より返事もいただいている。 (外部評価) 家族来訪時には、介護記録を見てもらったり、職員が記録を見ながら普段の暮らしぶりについて報告を行ったりしている。家族は普段から外食や親戚とのつきあい等に連れ出したり、自宅で泊まる等したり協力的で、事業所は、家族とともに利用者の納得いく暮らしを支えている。家族は、職員と一緒に喜んだり心配したりしてくれることを、とても心強く思っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のカンファレンスで個人的な意見や提案も検討され、ホーム運営に反映されるよう取り組んでいる。職員の在職率も高い。	
			(外部評価) 法人では年数回、慰労会を行っており、職員が仕事から離れて親睦を深める機会となっている。そのような取り組みは、ケアを行う上でのチームワークにもつながっている。夜間に行う場合は、全職員が参加できるように、系列事業所の職員がサポートに入っている。職員の子どもや孫が放課後を事業所で過ごし、一緒に帰宅する等、職員の子育てにも協力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 左記の事項が実践できるように取り組んでいる。又資格取得を奨励し取得後は資格手当等を含め、向上心を持って働けるよう努めている。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 新人研修をはじめすべての職員が、段階に応じた研修(中予ブロック研修)、社内研修をしてもらっている。常勤・非常勤問わず研修を受けるためのバックアップや自主的に勉強できやすい環境作りに取り組んでいる。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域密着型の研修、相互研修に参加しており、同事業者との交流を図っている。 また、町内のホームの方にも、ホームの勉強会などに案内をし、交流を図っている。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の状況、不安、要望を把握し傾聴に努めている。意思疎通の困難な方は、家族にも聴きとりをして、安心して暮らせるように支援している。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族関係や本人の状況など、じっくり話を聴き当ホームではどんな対応ができるのか双方の理解と納得が得られるまで、家族の心情を理解しつつ話し合いをするように努めている。出来る限り柔軟な対応をさせていただいている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族や本人が必要としているものを色々な角度から判断して、適切な支援が受けられるよう、その人に合った必要なサービスを提供できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は{介護している}ではなく、一緒に時を過ごしている家族のような関係作りに努めている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) それぞれに置かれた家族の思いに寄り添い共感しながら、家族と共に支える介護を目指し取り組んでいる。また、誕生日には家族に声をかけ、一緒に食事をし祝うように心掛けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) グループホームの近くに自宅がある人がいて、行きたい時いつでも行っている。車椅子で行くことが多いため道中、友達や近所の人と話しかけてきたり、馴染みの美容院に行くことで関係が途切れないよう支援に努めている。3人の娘さんが相談をし、年に数回自宅に帰り、楽しいひと時を送っている利用者さんがいる。 (外部評価) 系列事業所から移ってきた利用者は、お気に入りの職員がおり、時々会いに行けるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 関係を把握し、より良い関わりがもてるよう見守りや声かけを行っている。孤立しがちな方は職員がうまく交わる場を設定したりしながら、利用者同士の関係作りの支援を行っている。耳の遠い人にはコミュニケーションをとるために、筆談をしてコミュニケーションを図っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 亡くなったり、長期入院になったりして退所になられても関係を断ち切らないように、必要に応じて相談や支援を行っている。亡くなられた利用者さんの家族さんが、家でできた野菜などを持ってきてくださったり、近況報告等をしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のかかわりの中で職員が本人、一人一人の把握に努めている。本人の意向を第一にして自分で決めることができるような声かけをするよう取り組んでいる。意思疎通の困難な方は家族の希望や本人の表情・様子などから把握したり、本人の言葉や会話を記入し、情報収集に努めている。マツサーズを希望される利用者さんもあり、週に2回来てもらっている。 (外部評価) 法人では「一人ひとりの人を大切に」ケアに取り組んでおり、利用者の思いや意向をもとに暮らし続けられるよう支援している。生活が落ち着かない利用者には、24時間生活変化シートを作成して傾向を探ったり、私の姿と気持ちシートを利用者個々に作成したりして、暮らしへの願いや要望についての情報を整理している。	事業所は、利用者を地元で最期まで看ることに取り組んでいる。重度化し終末期を迎えた時にも穏やかに過ごせるように、これからの暮らし方の希望等、情報整理する仕組みを作ってはどうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 在宅での生活歴を本人や家族から聞き取りをして、把握に努めている。暮らしの把握をするために、センター方式を使用している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録に個々人の状態(食事、水分、排泄)や会話等、生活状態がわかるように記録している。できたことや、今までできていたができなくなったことなども記録し、職員間で話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人、ご家族の意向を伺いながら、各職員が利用者さんの希望していること等を本人から聞いている。ケアプラン作成時には、まず職員全員が本人の意向メモを作成し、さらにそれを担当者がまとめて、カンファレンスで全員で話し合いながら最終プランを作成している。状況変化があればその都度見直しを行っている。また、毎月のモニタリングにより、一人一人を把握し見直しにつなげている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画の見直し時には、職員全員が利用者の「困っていること」と「希望していること」を個々に記入しており、それらをもとにして新たな計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ケース記録にケアの実践状況や日々の様子を記録し、気付いたこと、本人の言葉等も記録するようにしている。職員同士も情報を共有しながら、実践や、介護計画の見直しに生かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>同法人内のイベントへの参加をし、交流を行っている。必要に応じ本人、家族の状況や要望を軸に臨機応変に対応している。入所するまで{まんざい}を踊っていた仲間の方が、敬老会に踊りを踊らせて欲しいと家族より言葉をもらい、当日踊ってもらった。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>近くのスーパーへの買い物、行きつけの美容院の利用、保育園、幼稚園児との交流等できるだけ豊かな暮らしができるよう、支援している。 社協のボランティア保障制度に加入している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) それぞれのかかりつけ医に定期的に月2回往診してもらっている。又、随時の受診の支援や24時間体制で診療して頂ける医院との連携もできている。町外の医療機関への受診も基本的には職員が同行するが、状況によってはご家族の同行をお願いしている。</p> <p>(外部評価) 心療内科医に日々の利用者の様子を細かく報告することで、薬を減らすことにつながったケースもある。夜間眠れないような利用者がいると、安易に入眠剤に頼ることをせず、日中は外に出て太陽の光を浴びる等、日中の過ごし方を工夫し支援している。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 普段は介護職員が一人一人の体調管理や病状把握に努めている。急変時は24時間体制のかかりつけ医や、法人内の看護職員に来てもらい相談したり、医療が必要な場合は訪問看護も利用が出来る。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 本人・家族が安心して入院生活を送れるよう支援している。入院時は職員が交代でお見舞いに行き様子を聞くようにしている。また、早期退院に向けて医療機関と話し合い、情報交換を行っている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居時、及び必要時にターミナルケアに関する指針を文書や口頭で説明し理解を得ると共にその都度話し合いを持ち、柔軟に対応、支援している。医療との連携による数名の看取り経験があり、いずれも自然死を望む御家族からとても感謝されている。27年度1名の方の看取りを行った。</p> <p>(外部評価) ほとんどの利用者、家族が事業所での看取り支援を希望しており、看取りの経験が豊富な事業所に安心感を持っている。入居時の聞き取りだけでなく、その都度、情報を共有して意思を確認し、支援を行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し、カンファレンス等で周知徹底を図っている。消防署の協力を得て、救命救急講習会を毎年1回行っている。回を追うごとに実践力が身に付いているように思うが、いざと言うときに備え安全安心に向けた取り組みを一層強化していきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年1回消防署の指導の下、避難訓練、消火訓練を実施している。また、職員間でも夜間帯の訓練を行っている。班長さんにはホームの見取り図と利用者の身体状況を情報提供し、いざというとき駆けつけてもらえるようお願いしている。ホームの隣の職員の自宅とも、すぐ連絡できるようにしている。自動火災通報装置・スプリンクラーを設置している。非常食も常備している。地域の防災訓練にも利用者さんと共に参加させていただいている。 (外部評価) 運営推進会議と併せて避難訓練を行った際には、職員が利用者役になって行い、近所の方に見学してもらった。又、夜間想定訓練時には、職員一名で利用者を1階まで避難させる訓練を行った。	居室の家具の固定やカセットボンベ等の備蓄物の検討、地域との協力体制等、地震や火災発生を想定して災害対策を検討してほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 法人の理念である「自由と尊厳」を基本にした言葉かけに努めている。トイレ誘導時に他者に聞こえないよう配慮したり、いろいろな面で本人に恥ずかしい思いをさせないように努めている。 (外部評価) 飲み物をすすめる時には、「お茶にしますか？ コーヒーにしますか？」等、自分で選べるように声をかけている。又、入浴の準備の際には着替えを一緒に選んだり、重度の方には「今日は寒いからこれでいいですか？」等、状況に応じて職員が提案をしている。日常は、予定を決めず、その日の利用者の状態や地域行事等に合わせて暮らせるよう支援しており、誕生日等には、家族を招き、松花堂弁当にちらし寿司を付け食事を準備する等、特別感を持てるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人一人の持てる力に合わせて、入浴時に衣類の選択をしてもらったり、買い物時の選択、おやつ時の飲み物の選択等、日常生活の中で自己決定できるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1人1人の体調、ペースに合わせた生活を優先したケアに努めている。 落ち着いた利用者さんには個別に部屋で話を聴いたり、散歩に出かけて気分転換を図ってもらっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 1人1人の好みを優先しその人らしいおしゃれができるよう支援している。毛染めやパーマも適時に行くようにし、化粧品を試みたい利用者さんには口紅や眉墨を購入し、おしゃれをしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備やあとかたづけは、その時々利用者さんの状態に合わせて臨機応変に対応している。一緒に買い物に行ったり、調理の下ごしらえを職員と一緒にしている。 (外部評価) 調理専門の職員を配置して、食事は彩り良く、野菜を多く採り入れ、全体的に柔らかく調理している。煮物が好きな利用者が多いこともあり、季節の食材を使った煮物をよく献立に採り入れている。調理にかかわる利用者はエプロンを着け、すり鉢でゴマをすったり、食後の食器拭きをしていた。介助が必要な利用者には、職員が隣に座り、一口ずつ「お魚ですよ」「お寿司ですよ」と声をかけサポートしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量を把握し、1人1人の状態や習慣に応じた支援ができるよう努めている。また、糖尿病の利用者さんには麦ごはんを食べていただいたり、味付けの工夫をしたり等、持病の状態を考慮した調理や配膳方法に気を付けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後歯磨きの声かけを行い、自分で洗面所へ行ってもらっている。自分で行えない利用者さんは職員が手伝っている。 チェック表に記入し確認している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 排泄チェック表に記入し、個々の排泄パターンを把握しつつ利用者のサインを見逃さないよう努めている。随時トイレ誘導し、経済的負担も減らせるよう工夫している。テナーパンツでの対応で不快感の排除、自己負担である排泄用品の出費の軽減に努めている。</p> <p>(外部評価) トイレには、少し低い位置にイラストと「トイレ」の表示をしている。重度の利用者が複数いるが、昼間は全員がトイレで排泄できるよう支援しており、夜間は利用者の状態に合わせてトイレに誘導するケースや、ゆっくり眠れるようにおむつを使用するケースがある。調査訪問時には、椅子から立ち上った利用者にそっと寄り添って、トイレに誘導している職員の様子が見られた。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 出来る限り薬物に頼らず排便できるよう、水分補給等いろいろ工夫し、ヨーグルトや牛乳を飲んでもらったり等、食事療法での自然排便を促している。無理な場合はかかりつけ医と相談しながら下剤の調整を行うなど支援に努めている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 1人1人の体調に合わせて入浴している。回数も特に決まりはなく、快く楽しめる入浴を心がけている。重度の利用者さんには2名で介助を行い利用者さんの安全と、職員の腰痛予防にも気を付けている。また入浴剤を選んでもらったり、楽しんでもらっている。</p> <p>(外部評価) 男性職員は、男性利用者の入浴介助を行っている。一般家庭のような浴槽で、重度の利用者も週に2～3回は入浴できるように支援している。希望者には入浴剤を入れたり、専用のシャンプーを使用して支援している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) リビングで職員と一緒にテレビを見たりお茶を飲んだりして眠くなったら居室に帰る方がいたり、自由にしてもらっている。自室で本を読んだりアルバムを見ながらCDを聞いている利用者さんもある。冬場は湯たんぽを使用し、安眠につなげている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬説明書を個別に管理し、全職員がいつでも確認できるようにしている。飲み忘れや誤配がないように服薬管理し、又症状の変化にすぐ気付けるよう観察を怠らないよう努めている。薬が変更したときは職員にも周知し、家族に連絡し知らせている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人のできることを依頼したり、体操、買い物、ドライブ、外食等楽しみごとや気分転換の支援に努めている。また、四季折々に花の見学に出かけたり、職員と家に帰ったり、家族と家に帰る等気晴らしの支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物も利用者さんと出かけるようにしたり、墓参り、寺、お宮参り等行きたいところに出かけられるよう支援している。動物園に出かけ、手作りのお弁当をみんなで食べた。4月には桜を追いかけ、天気の良い日はドライブをし花見に行くことができた。 (外部評価) 事業所の前に出て、小学生の下校の見守りを行っている。「外出はしんどい」という利用者でも、子ども達の見守りをお願いすると外に出て、一緒に行ってくれる。重度の利用者も車いすを使い、外に出るような機会を積極的に作り、地域行事にも参加できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分でお小遣いを管理している利用者さんもいて、自分の好きなものや、欲しいものを職員と一緒に買いに行っている。支払いできる方はして頂き、個々の状況に応じて、支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 当然のこととして対応しているが、できる利用者さんは少ない。男性の利用者さんが、時々家族に連絡を取るため、職員に「電話をかけてや」と言い家族と話をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングが天窓になっており、柔らかい光に包まれているので利用者、来訪者もリラックスできていると思う。踊り場にソファを置いたり利用者それぞれが好きな場所でくつろげる工夫をしている。ベランダには季節の野菜を植え成長がみられるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>窓や天窓から自然光が入り、風通しがよく、ベランダではキュウリの苗が生長し実を付けていた。日中は居間で過ごす利用者が多く、思い思いに過ごしている様子が見られた。昼食時には照明を点け明るくして、食後には消していた。洗面台には、小さな花瓶に野花を飾っている。又、家族からの誕生日プレゼントの花かごをテーブルに飾っていた。カラオケが好きな方は、1階の大きいホールで大きい音でカラオケを楽しんでいる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ソファに座り気に入ったテレビを観たり、テーブル席で洗濯物をたたんだり思い思いに過ごしている。 歌が好きな利用者さんと職員さんが一緒に歌を歌ったり、利用者さん同士の話や、楽しい笑い声も聞こえている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者さんの部屋は、利用者さんの状態に応じ洋室、和室を利用できるようにしている。ダンス、テレビ、小物など本人の使い慣れたものを持ち込んでもらうようにしている。家族の写真や誕生日の色紙などを飾り、安心して過ごせる場所になっている。西日が入る部屋はすだれをかけるなどの配慮をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間に面した居室の方には、入口にのれんを取り付け、扉の開閉時のプライバシーに配慮している。小さな花瓶にお花を生けて飾っているところがあった。自分で意思表示ができる利用者の居室には、ベッド脇にコールブザーを置いている。歌が好きな方は、CDで懐かしい歌を聞いて過ごしていた。家族の写真や会いたい人の写真をベッド脇に置いている方もいる。障害者福祉施設からの実習生を受け入れており、居室のそうじ等を丁寧に行ってくれている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>車いすで自走する方がいる。廊下やトイレに手すりを付け、自分の力で立位するようになっている。玄関は座って靴が履けるようになっており、自分のできることやわかることは極力見守りで支援するよう努め、待つ介護を心掛けている。</p>	